

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

**変わる社会 終末期の変化** 人間はこの世に生まれ、いつか必ず死ぬのは運命です。ところが、どこで死ぬかという、必ずしも希望通りにならないのも事実です。家族に迷惑を掛けたくないと思ながらも、家族に見守られてという希望もあります。いずれにしても、社会の変化（核家族化など）は、終末の場所さえ変化させています。いわゆる希望と現実のギャップです。

### 主な終末期の場所

	病院	自宅	施設
50年前	11%	83%	0%
2015年	76%	13%	9%
2021年	75%	14%	9%
本人希望	20%	70%	2%

\*100%に足りないのは、無回答。

左の表は、終末期の場所を表したものです。この表で目立つのは、病院か自宅かで50年前とは全く逆転していることです。そして、2015年頃から少しずつ病院から自宅へと変化していることです。

また、この数字の変化とは別に、個人の希望を聞くと、現状とは裏腹に50年前に近い状態の回答が得られています。つまり出来るならば、**住み慣れた自宅**というものです。

皆さんは、この結果をどう思いますか。希望の在宅死の思いを遂げるには、様々な要件が満たされねばなりません。「本人の思い」「家族の理解と協力」「介護施設や病院の環境や周知」が重要です。

2015年を境に徐々ではありますが、病院から自宅へと変化していることは注目すべきです。

さて、希望と現実の違いの理解を得ますことで、新たな動性に移ります。近年面白い取り組みをしている医療機関があります。①「おうちへ帰ろう病院」②「おうちで良かった訪問看護」③「ごはんを食べたい歯科」というものです。①と②は在宅医療の希望を叶えるべく取り組みです。また、③は正しく「歯はいのち」ともいうべきものです。これらは在宅看護に必要な要件でもあります。

①「**おうちへ帰ろう病院**」出来るだけ寝たきりにならないよう、リハビリに励むことも重要ですが、出来る限り早期に自宅に帰って、社会生活を復活させる事を目指します。それには本人（帰る気持ち）家族（受け入れと理解）・医師（診療目標）・看護師（目的の明確化）が一体となって、これに取り組む姿勢がなければ達成出来ません。人任せでは出来ません。

②「**おうちで良かった訪問看護**」これは訪問する看護師や介護士の肩に掛かることが多いものです。つまり看護師や介護士が本来の仕事を通して、本人や家族がおうちで訪問看護を受けて良かったと思えるにはどうすれば良いのか。見守るだけでなく、一緒に楽しい時間を過ごすことで時間の共有を。

③「**ごはんを食べたい歯科**」ただ単に歯の治療だけでなく、本人が本人の意志で食べたいものを食べるためのサポートです。食べられる歯の状態、食べられるメニューや食べ方の実践及び指導です。

### 家康ゆかりの地

#### ⑧遠近分器稻荷神社

古くは征夷大將軍の坂上田村麻呂の折に神馬を奉納し、源頼朝公が神馬と幣京を奉納し、家康は松平忠頼に命じて修造した。

本多忠勝の屋敷は、神社の隣にあった。



### 「同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男

連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX：(053) 489-6391

[ironman29@hotmail.co.jp](mailto:ironman29@hotmail.co.jp)

「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。